

昭和54年度 夏期研修会報告

期 日 昭和54年 8月1日～3日

会 場 県立香住高等学校

第1日 講演「マツバガニについて」

講師 兵庫県水産試験場但馬分場長 小林敏男先生

第2日 (1) ウニの受精と発生観察

(2) 磯採集 指導 県立赤穂高校長 金澤龍先生

第3日 洞門めぐり

第2日記録

午前中は高橋匡先生の指導により「ウニの媒精と発生観察」を行った。2～4細胞期まで観察したのち、観察を中断して、昼食。午後は今子浜に移動し、金澤龍先生の指導により、磯採集を行なった。

会員の採集した海藻は次のものである。

<緑藻類>

ア オ サ 科：アナアオサ、スジアオノリ、
ヒラアオノリ

シ オ グ サ 科：オオシオグサ

ミ ル 科：ミル

<褐藻類>

アミジグサ科：アミジグサ、ヘラヤハズ、シワヤハズ、コナウミウチワ、オキナウチワ

カヤモノリ科：カゴモノリ

コ ン ブ 科：アラメ、カジメ

ホンダワラ科：フシスジモク、イソモク、アカモク、ナラサモ、ヤツマタモク、マメダワラ、オオバモク、ウミトラノオ、ヨレモク

<紅藻類>

ベニモズク科：ウミゾウメン

テングサ科：マクサ

ナミノハナ科：ホソバナミノハナ

サンゴモ科：カニノテ、ピリヒバ

ムカデノリ科：ムカデノリ、コメノリ

ヒカゲノイト科：ベニスナゴ

ユ カ リ 科：ユカリ

スギノリ科：スギノリ、ツノマタ

オキツノリ科：オキツノリ

イバラノリ科：イバラノリ

オゴノリ科：シラモ

ワツナギソウ科：ワツナギソウ

コノハノリ科：ハイウスバノリ

フジマツモ科：ユナ、ミツデソゾ、ハネソゾ

採集後香住高校に帰り、金澤先生の指導で標本作成をおこなった。

昭和55年度 夏期研修会報告

期 日 昭和55年 8月11日～12日(火)

会 場 南淡町沼島中学校

昭和45年に当地で実施された兵庫県生物学会総会から今回は10年後の沼島の自然の変貌を陸と海の両面から出来るだけ具体的に観察することを目的で開催しました。

〔第1日〕

午後1時より沼島中学校で受付および開講式をする予定であったが、沼島への渡船の時間変更により午後3時より「旅館とらや」で実施した。お盆の関係で宿泊旅館を確保するのが困難で定員25名であったが約30名の申込みがありました。受付後、室井紳先生の挨拶をいただき研修会の日程説明後、すぐ夕食を取り全員が淡路の活造りのうまさを実味した。夜の研修の部でスライド映写を行った。当初予定していた「沼島の自然」の講演が、南光重毅先生の御都合が急に悪くなり、淡路支部の岡田支部長が撮影した沼島の岩石、青石、下立神、上立神、仏堂等の代表的なスライド映写により明日観察して回る岩石の研究をした。特に、ニュー兵庫に以前特集したウミウの渡来地である沼島の人を寄せつけない仏堂の断崖絶壁の迫力は実にすばらしいものであった。

また、東海大学海洋教育講習会で実習して来たスライドも映写され大いに参考になった。ついで、当津先生が長らく撮影された身近な植物の花のスライド写真は、新しい角度から自然の生物を見る大切さを教えられた。

〔第2日〕

午前8時より海産プランクトン検鏡実習班と野外植物・磯採集班の2班に分かれて研修が始まった。

海産プランクトン採水の指導は県立北須磨高等学校の富川哲夫先生にお願いした。沼島漁協の金丸参事さんのご配慮で漁協の専用船をチャーターしていただき、各採水ステーションごとの表層プランクトン、中層プランクトン、下層プランクトンの採集をした。ついで沼島の奇岩を観察するため島の周りを接近して周航してもらった。乗船した全員が陸からは到底観ることのできない約100mの断崖絶壁にウーンすごいと異口同音に感嘆した。

さて、約40分程で島を一巡後再び沼島港に入港し、早速採集して来たプランクトンを、既に用意された沼島中学校の理科室で検鏡した。日頃なかなか観ることのできない生きたプランクトンの実物をあらためて驚きながら観察スケッチした。富川哲夫先生の準備していただいた「海産プランクトン資料」の印刷図表と首っ引きで、すばらしい宝石のような植物プランクトン、あわただしく遊泳する動物プランクトンの種名を検索した。

富川先生は海産プランクトンの種類の多さは陸水産ブ

ランクトンの比でないと言われ、水槽での飼育・培養が困難でその生態はいまだ説明部分がわずかしかないと説明された。

今後この海産プランクトン分野の生態研究が困難ではあるが、栽培漁業に大きく世界の情勢が動いている昨今、絶対に必要であると考えられる。野外植物・磯採集班は予定通り、島の周歩道沿いに古水の浜のハマユウの自生地等を室井先生の指導で採集観察した。午後2時、旅館とらや前で閉講式をして解散した。(岡田清隆)

＝新刊紹介＝

「木の名 草の名」 近藤浩文 著

物知りの著者が生物名の覚え方を長い体験から割出して覚えやすく、かつ面白く書いてある。

名前を知ることが第一歩、このことは人のつき合いに限らない。その証拠に、私たちの身の廻りの商品、たとえばテレビや車には、たいてい愛称がついている。

身の美しいか、有用な植物に親しみをもち始めるのも、ふとしたきっかけで名前を知って、ということが多いただろう。では私たちが日常、気にもしないよんでいる草や樹木は、どうしてそういう名前がついたのか、本書は、草木の名前の由来に着目して編まれている。

コケモモ、オオオニバス、オニユリなどは全体の感じから、スギ、フウセンカズラ、ハイマツなどは、全体の形から、スギはスンスン伸びる中略、すなわち直木で幹が直立して育つ木の意味である。他に物理的な性質から何に似ているか、人物や人名から、地名からなど10に区別している。家の庭から始める植物の入門の書である。家族全体が親しめる書物である。保育社カラーブックス 500円。(兵庫県生物学会長 室井 綽)

「日本産花粉の標徴Ⅰ」(解説), Ⅱ(図版)

高知大学名誉教授 中村 純 著

I(解説) 91ページ, 1図 } セット
II(図版) 写真 157図版(3211図) }

定価 1セット 4,500円 送料 500円 計 5,000円
送金方法

(1)郵便振替 大阪317961(大阪府立自然史博物館友会の会)

(2)現金書留 〒546 大阪市東住吉区長居公園1-23
大阪府立自然史博物館

「神戸のしだ」 白岩卓巳 著

「神戸の自然シリーズ」の第3号として出たこの本の内容は次のようになっている。

1. 身近にあるシダ。2. 神戸のシダ12話。3. 山の姿とシダ。4. シダの形。5. シダと人間の生活。資料として神戸のシダ目録。

本文中には、数多くの生態写真、部分の写真、線画などが入っており、シダ植物への理解を助けてくれる。神戸という名に関係なくシダ研究の基本姿勢をふまえた良き参考書である。(市立北須磨小学校長 藤岡 昇)

A5判 134+39ページ, 神戸市立教育研究所発行。
購入希望の方は送料とも 1,100円

申し込み先 〒657神戸市灘区鶴甲4丁目7-21-507
白岩 卓巳 宛

「植物観察図解事典」 岡村・室井 著

「動物観察事典」 岡村・佐藤・古川・室井 著

この二冊の本は、実験、観察のたびごとに参考になっています。高校生はもちろん、小、中学生にも大学生にもまた生物学に関心のある方々にも、よく推奨してきましたが、絶版になってからは古書としての価値が高騰してなかなか手に入りにくくなって困っていました。

このたび、さらに新しい知見や内容が盛り込まれ、図や表も多くなり、表現もやさしくなって、ふたたび出版されることになりました。この機会に前にもまして多くのひとたちにおすすめていたいと思っています。

個人の蔵書として、また学校や会社の図書室にぜひ一冊求められてはいかがですか。

兵庫県生物学会理事長 当津 隆

○書名 動物図解観察事典
著者 岡村はた, 十亀好雄, 富川哲夫
前田米太郎, 室井 綽

出版社 東京地人書館
発行予定日 昭和56年3月頃
定価(予定) A5版 450ページ 4,500円

○書名 植物図解観察事典
著者 家永善文, 岡村はた, 橋本光政
平畑政幸, 藤本義昭, 前田米太郎,
室井 綽

出版社 南京地人書館
発行予定日 昭和56年9月頃
定価(予定) A5版 500ページ 5,000円